

年 頭 の ご 挨 拶



鹿児島市医師会病院 院長

園田 健

あけましておめでとうございます。会員の皆様ご家族及び各医療機関の職員の皆様、ともに晴れやかに平成最後の年明けをお迎えのこととお喜び申し上げます。

院長を拝命して五年目の春を迎えました。この間医療をめぐる環境はめまぐるしく変化を遂げ、その都度会員の皆様のニーズに沿うべく柔軟に病院の体制を変革してまいりました。現在は急性期を中心としたケアミックスとして、在宅後方支援病院としても対応し、地域包括ケアシステムの推進にお役に立てる体制を整えております。これらの施策が徐々に軌道に乗りつつありますが、なお、人材面や財政面など問題は山積されており、今後も引き続き会員の皆様のご支援を賜りたいと存じます。

昨年を振り返りますと、平昌オリンピックでの日本選手団の活躍は目覚ましいものでした。この大会では南北朝鮮の合同チームが結成され、その後南北首脳会談更には初めてのトランプ・金正恩会談が成立。その結果ミサイル・原子力開発は一時凍結されましたが、その後も原子力開発は潜行して継続されているとの報道もあり、予断を許しません。経済ではトランプ氏のアメリカン国主義に基づく二国間交渉の影響、米中の経済貿易戦争など、

日本も大きな渦に巻き込まれていく様相を呈しております。

韓国は大統領が変わる度にその方針が変わり、安心してお付き合いしづらい状況です。しかし、我々は国を引っ越すことはできませんし、双方の国民の多くはできれば仲良くしたいと考えていると信じ、冷静な対応をしていきたいものです。

韓国の政治に大きな影響を与えているものにネットの氾濫があげられます。

情報は瞬時に拡散され、実数以上の勢力となって大衆行動を引き起こしかねないものです。うわさや虚偽のものすら真実にでっち上げられてしまう恐れがあります。日本でも同様のことが起こりつつあると思われ、節度ある利用の仕方、判断材料となる適切な出版物やメディアなどの情報を常にチェックして過ちを犯さない努力が必要です。

去年は台風の発生回数や上陸回数が多く、近畿を襲った台風により“関西国際空港”が一時的に使用不能となりました。また北海道地震においては、全道停電を引き起こし、その送電システム・安全対策・危機管理の不備が露呈致しました。しっかりとした国の電力供給システム構築がのぞまれます。

さて医療に関しては地域医療構想では、病

床機能報告がさらに詳細に検討され、高次機能・急性期・回復期などの現状認識を質的・量的に把握して、2025年に向け適正なベッド数に収束していく方針がまず公立病院・公的病院に適應され、順次私立病院にも応用されるようです。国は埼玉・佐賀・奈良県など先行している県の質的・量的な評価の指標策定に倣い、各県で定めるべき医療提供の実態を把握していく方針であります。因みに当院の実績からは現時点でのケアミックス方式が適正なものであることを実証できておりますが、今後は人材獲得と稼働率をもとにベッド数の調整なども視野に入れた検討が必要と思われる。

更に昨年4月から働き方改革が実施され、医師の残業上限規制や割増賃金率・年次有給休暇取得の義務化など当院でも早急に対応する準備が必要と考えています。

また財政再建・社会保障費の財源たるべき消費税増税は引き続き購買意欲の低下を懸念するあまり、実効が上がらないのではないかと危惧されています。更には鹿屋の介護施設での高齢者死亡多発事例は介護力の低下により今後も発生する恐れがあるものと考えられます。国は介護力を外国人労働者に求めて入国管理法改訂を急いでおりますが、日本人がしり込みする職業に外国の方が定着するという考えは、身勝手なもので達成は容易ではないと思われます。2025年の後期高齢者問題や2040年多死の時代に対して抜かりない政策が望まれます。

さて私個人及び医師会病院としては、迫田晃郎名誉院長先生が亡くなられたことが最も大きい出来事でした。先生は昭和59年当院開院時故佐藤院長のもと副院長として赴任され、以来私共を指導し励ましてくださった恩人であり、退職後は驚きの開業以降最も患者様を紹介して下さる顧客として大きな存在でした。先生を失ったことは精神的にも実質的に

も大きなものでありましたが、先生の“一生一臨床医師”の姿勢に恥じぬよう今後も励んでゆきたいと存じます。

医師会病院の理念である会員のための病院としての機能維持を意識して昨年第二回目の医師会連携施設との懇談会を8月2日、10月20日の2度に分けて開催することができました。いずれも盛況で今後の病院運営にも期待が持てるものでありました。しかし、上半期の営業実績は毎年のトレンドとはいえ、キャッシュベースでも若干のマイナスでした。しかし10月・11月と盛り返し、ボーナスは滞りなく支給することができました。

スタッフでは4月より消化器内科に田淵先生が赴任。6月から宮田先生が大学井戸教授のご許可を得て入局の上、当院で勤務されています。消化器内科は常勤医師5人となり、より一層の患者受け入れが可能と思えますのでよろしくお願いします。神経内科は一人増員で神経内科専門医の派遣となりました。循環器と並び急患を受け入れ、病床稼働目標を達成し続けている科であり、大学両医局のご支援に感謝申し上げる次第です。婦人科には牧瀬先生が戻ってこれ4人体制となりました。

医師会病院は開院以来紹介型病院の基本姿勢を貫いてまいりました。繁栄も衰退も医師会員の皆様のお考え次第です。なにとぞ今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、基幹型研修医には二人マッチングしました。大学協力型三人と合わせて五人の若者が研修中です。若き医師を育てていくことが将来の安定した後継者づくりに貢献できると考えます。

以上、医師会病院が皆様とともに地域医療の一翼を担っていけるよう努力していく決意を新たに致しまして年頭のご挨拶といたします。今年もご支援をよろしくお願いいたします。